

編集後記

*

第22号をお届けします。本誌は学部全体に門戸は開放していたけれど、今回より会員制を撤廃し、学部のメンバーがすんなりと執筆できるよう努力した。そのためか、全6篇と本数が増え、また同時にそれぞれの質の高い論考に対し、深甚なる敬意と謝意を表したい。

*

新しく投稿された関真彦氏は新進気鋭のアメリカ文学研究者であり、特にアーネスト・ヘミングウェイを専門としている。前途が有望だ。

*

一頃から、本誌はインターネットで読めるようになつており、その有用性に目を見張るばかりである。逆に言えば、近い将来、新聞、雑誌、書籍など紙媒体のものは軽んじられ、発行停止の状態になるのだろうか。現にアメリカではそれが徐々に現実となつてていると言つてよい。日本においても実際、例えば学生は新聞や雑誌を取らなくなり、スマートフォンやタブレット端末で検索し読んでいる。ただ、電子書籍が増えてても、地道に努力する研究姿勢は万古不易だろう。

*

われわれは読みやすい原稿を書くよう心がけるべきだろう。なぜなら、ペダンティックに書いたり、氣を衒つて書いたりすると、どうしても読みやすく書くことは難しくなる傾向にある。時に翻訳において、普遍的で時代性のない書き方ができるのだろうか、絶えず自問している。最後に、今後ともさらなる投稿をお願いする次第である。